

小山恒男, 矢作直久 (編著)

十二指腸腫瘍の内視鏡治療とマネジメント

山本博徳

自治医大主任教授・内科学/教授・消化器内科学

この度小山恒男先生, 矢作直久先生による『十二指腸腫瘍の内視鏡治療とマネジメント』が出版された。非常にタイムリーな, 今必要とされる指南書である。25年前にわれわれがESDを始めたのは, 低侵襲で臓器温存のできる内視鏡治療の現実性を高め, 適応を広げたいと考えたからである。適応を広げると本来リンパ節郭清を必要とする外科手術の適応病変にまで踏み込む可能性も出てくるため, 詳細な病理診断によりリンパ節転移のリスクを詳しく知りたく, 一括摘除にこだわったという経緯がある。

近年十二指腸腫瘍が脚光を浴びている。十二指腸は, 解剖学的に特殊な臓器である。食道, 胃, 大腸では, 標準的な治療として手技も確立したESDではあるが, 十二指腸においては極めて技術的にも困難であり,

リスクも高い。穿孔等の偶発症を起こすと胆汁が後腹膜に漏れることにより, 致命的な問題に進展するリスクも高い。一方で, 十二指腸の解剖学的な特殊性のため, 手術の治療においても高度な技術が要求され, リスク, 侵襲の大きな手術となってしまう。

そういう意味では, 内視鏡治療で完遂できればメリットも大きいと言える。十二指腸の内視鏡治療はリスクとベネフィットの両方が大きい手技であると言えるが, それ故その特徴をよく知り, 理解し, 適切な治療法の選択は非常に重要となる。安易に手を出して取り返しのつかないような合併症を引き起こすことのないように本書を通じて理解を深めていただきたい。

本書は, 十二指腸における内視鏡治療の特殊性, 実施に必要な体制,

術前チェックの実際, 麻酔法, ESDのみならず, cold snare polypectomy, under water-EMR, EMR, LECSも含めた各種治療法の解説とコツに加えて切除後の縫縮や縫縮困難時の対応など治療後の偶発症予防法, また, 偶発症発生時の対応法まで詳しく解説されている。そして後半では実際の症例を通じてマネジメントのコツを学べるように豊富な症例が提示されている。これから十二指腸腫瘍の内視鏡治療を始めようとする先生方, 十二指腸腫瘍の内視鏡治療をより安全確実にやっていこうと考えている先生方にお薦めの一冊である。ぜひ役立ててほしい。

●B5/頁 292/2023 年 6 月

定価: 12,100 円

(本体 11,000 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-04337-3]

医学書院 刊